

## 我等の生業さまざまなれど

先日の土曜日のお昼前、愛犬と一緒にいつもの散歩に出かけた。少し時間があったので、ブラブラと遠回りした。建築工事現場があった。店舗の改修工事のようだった。工事はいよいよ最盛期にさしかかる様子で、多くの職人さんたちがあわただしく動き回っていた。

道路を挟んだところに小さな公園があり、そこにベンチがあった。天気も良かったので、そのベンチに座って、愛犬をあやしながら工事の様子をしばらく見ていた。

店舗前の駐車場には、建築工事会社の名前の入ったトラック、電気設備会社の名前の入ったトラック、内装工事会社の名前の入った軽ワゴン、そして地元大手建設会社の名前の入ったバンが並んでいた。合計で10名程度はいた職人さんたちのユニフォームジャンパーにもそれぞれの会社の名前が入っていた。

いろいろな工事の指示のかけ声や笑い声が響いていた。物を運ぶ音や電動ネジ回し機の音も響いていた。途中で、工事現場の廃材などを運び出す業者が来たり、お昼近くだったので、弁当配達業者も来たりして、見ていて飽きなかった。

そうか、一つの工事現場だけでもいくつもの業者が関わっているわけだ。元請業者、下請業者から、電気設備業者、内装工事業業者、果ては産廃業者や弁当配達業者まで。まさに、「我等の生業さまざまなれど集いて凶る心は一つ」、「役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し」か。まさに「職業の連環によって社会は成り立っている」んだなあ。

妙に納得したところで、「それに比べてみると、自分の生業の弁護士業なんてもんは、自己完結型だもんな」と、少し寂しいような気になった。

お腹が空いたのか、愛犬が自宅に向かって早足で走り始めたので、それに引きずられながらも、自分の生業の立ち位置についての疑問が頭を離れなかった。

元請業者と下請業者とのトラブルとか、建築業者と内装工事業業者とのトラブルや裁判なども扱うことがあるな・・・などと頭の中でぐるぐると考えていた。

自宅が少し見えてきたところで思いついた。もしかしたら、自分の弁護士業という生業は、こういった業者間の連環や、さらには人と人とのつながりが崩れかけたときに、それを修復したり、修復できないときは両者が納得できるところで手を打って清算し、次の連環の準備をする業務ではないかと。つまり、「職業の連環の潤滑油」なのではないかと。

あっ、そうか。「職業の連環の潤滑油」だとすれば、その連環が崩れてから修復や清算に取りかかるより、事前に、連環が崩れないような工夫、アドバイスをしてあげることの方が大切だな、あっ、それがいわゆる「予防法学」か。そもそもの契約書の入念なチェックとかトラブルを事前にシミュレーションしての対策の提言とか、そうか、そうか。

私は、再び妙に納得した。

愛犬と一緒に小走りで家路についた。